

五月 晴れのもと

《八十八夜祭》《金沢つつじ祭り》《盛大に

八十八夜祭は五月三日、美の山にある皆野椋神社の奥社、蓑山神社で行われました。

恒例の「御神幸行列」、神主を先頭におかめやひよっこ、天狗、地元の氏子たちが笛や太鼓の演奏とともに新緑の中を進みます。

その後は「皆野民俗芸能奏楽研究会」の人たちによる神楽を中心にした伝統芸能の演奏が披露されました。

今回、皆野小学校郷土芸能クラブの卒業生は10名、だんだん卒業者が少なくなっているようです。また、富士見市の「富士見太鼓の会」の3名も卒業しました。今年も「皆野屋台ばやし」が秩父の山々に響き渡りました。



金沢つつじ祭りは、五月五日

に金沢萩神社で行われました。

周辺のつつじはちょうど満開、地区ごとの自慢の料理がたくさん並びます。

祭りのメインは、この地区に伝わる「出牛人形浄瑠璃」(じょうり)です。

3人であやつる人形の手や足の動き、見ていると引き込まれていきます。

今年も境内でにぎやかに行われました。

地域に伝わる文化を守ることは大変なことですが、いつまでも引き継いでいってほしいものです。

金子兜太さんの新たな句碑

皆野町に設置される！

金子兜太さん(現代俳句協会名誉会長)の新たな句碑が大浜の椋神社の境内に設置された。「東京新聞」に報道されていました。

句碑には

おおかみに螢が一つ付いていた
の句が刻まれています。

兜太さんが出征の時、母親が守りとして持たせた千人針には、椋神社のお札が縫い付けられていました。四月二十日の除幕式で

兜太さんは「太平洋の激戦地で、お札の光に守られていたのを感じた。その光は古里のホタル光に近いイメージで、この神社に置くのにふさわしい句だと思う」と話していました。兜太さんは任んでいく熊谷で、自身の戦争体験を平和集会などで訴えています。



花の季節にゆせて

季節は移ろい、ポピーまつりの頃になりました。「天空の・・・」という形容は大げさでなく、初夏の青空に赤いポピーが映え、とてもすてきな場所です。大きな木の下のベンチに座って風に吹かれるのも気持ちのよいひととき。

欲を言えば、牧草の所に、上のほうにいる牛やヤギを放してもらえばもっといいな、などと勝手に思っています。

それにつけても残念なのは「美の山桜まつり」です。今年も桜のニョーラスを見ながら、気をもんでしまいました。せっかく祭りも銘打って、シャトルバスも出すのに。ここ数年ソメイヨシノなどが完全に終わり、八重やウコン、ギョウコウ(御衣黄)などがまだ一分咲きというような祭りの期間の設定です。

温暖化の影響で見ごろが早まっているので来年はぜひ満開の桜を見たいと思います。(武)

